

関西経済界と関西広域連合の意見交換会

日時：平成30年1月25日（木）

午後0時55分～午後3時15分

場所：大阪府咲洲庁舎

開会 午後0時55分

○**関西広域連合本部事務局（中塚則男）** それでは、定刻より少し早いですけれども、皆さんおそろいですので、ただいまから、関西広域連合と関西経済会の皆様と関西広域連合との意見交換会を始めさせていただきます。

私、本日の進行役を務めます、関西広域連合本部事務局の中塚と申します。

それでは、初めに、井戸連合長よりご挨拶を申し上げます。連合長、よろしくお願い致します。

○**関西広域連合長（井戸敏三）** 今回の意見交換会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。皆様には大変ご多用の中、ご出席いただきまして、お礼を申し上げたいと存じます。このような関西の経済界との意見交換会は、平成24年度から行っておりますので、7回目になるのではないかと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

最近の広域連合の取り組みにつきまして若干ご紹介をさせていただきたいと思えます。まず、先ほど万博予定地の会場を上からご覧いただいたわけではありますが、万博の誘致についてでございます。関西への誘致は、関西のすばらしさを世界の人々に理解してもらう絶好の機会になります。また、関西全域への新たな観光や産業のイノベーションが期待できる、大きな経済効果をもたらしてくれることにつながると思っております。また、世界に関西の知名度を上げる絶好の機会でもございます。そして、日本列島の利用におきまして、双眼構造をつくるべきだと主張させていただいておりますが、これにも寄与することになろうかと思っております。このような関西の盛り上がりで、ぜひとも2025年の万博の誘致を実現したい、そのように私も屋上から会場

を眺めながら決意を新たにしたところでございます。どうぞよろしく経済界の皆様にもお願いを申し上げたいと存じます。

なお、パリが辞退するというようなニュースが流れておりますけれども、このようなことに惑わされることなく、しっかりと自分たちの誘致活動を積み重ねていくことが大事なのではないか、気を引き締めていきたいと思っております。本年3月までにはBIEの調査団が来られるということになっておりますので、その調査団に対しまして、先ほど申しましたような関西の持つポテンシャルをしっかりと理解していただくように努めていくことが肝要かと思っております。これからも戦略的な取り組みを進めてまいりますので、どうぞよろしくご協力をお願いしたいと存じます。

続きまして、ワールドマスターズゲームズ2021関西についてでもございますが、もう開催まで3年半ということになりました。大会の知名度の向上ですとか具体的な大会運営の確立など、課題を持っているわけでありましたが、しっかりと準備を進めてまいりたいと考えております。特に現在、府県単位の実行委員会は設立されているわけでありまして、開催市町村ごとの実行委員会の設立を行っていただくように協力をお願いしているところでございます。

2019年の「ラグビーワールドカップ」、 「2020年の東京オリンピック・パラリンピック」、そして、2021年の「ワールドマスターズゲームズ関西」を関西で行うわけでございますので、そのようなゴールデン・スポーツイヤーズの成功を見据えまして、関経連の方からもご提案いただきましたとおり、昨年9月から官民連携のタスクフォースを立ち上げ、機運情勢などに取り組んでいるわけでございます。

あわせまして、生涯スポーツの中心は関西だという生涯スポーツの確立も図っていききたいし、スポーツを通じた地域振興という意味でも、スポーツツーリズムという考え方でもしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

今年の9月ですけれども、マレーシアのペナンにおきまして、マスターズゲームズの地域大会でありますアジアパシフィックマスターズゲームズの開催が予定されてお

ます。日本からも多くの方に参加していただきまして、マスターズゲームズの魅力を体感していただくことが私たちのワールドマスターズゲームズの盛り上がりや機運情勢につながると考えております。また、現地で外国人参加者と交流を図ることが関西大会の大きなPRにもなりますので、ぜひ経済界からもご出席をご検討いただきますことをお願い申し上げます。

これからも2025年の万博へ、このワールドマスターズゲームズのレガシーとしての大会としてつなげていけるような立派な大会にしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

関西観光本部が機能を果たしてきております。平成28年の3月に設立したわけですが、訪日外国人観光客の呼び込み強化に向けて官民連携で推進をいたしており、昨年4月には関西観光本部として、そして、11月には日本版DMOとして観光庁から認可も受けました。官民が一体となりまして広域観光、そして海外プロモーションなどにも引き続き取り組んでまいりますので、よろしくお願ひいたします。早速大きな成果として、シドニーと関西との直行便が定期便として運航されるということになりました。このような成果も上げてきております。これからさらに努力を続けたいと思います。

この後、関西健康・医療創生会議の報告がございますが、健康・医療分野での関西での活動のプラットフォームとしてつくった関西健康・医療創生会議でございますけれども、まちづくりやモノづくり技術の基礎づくり、人材づくり、これが重要であるという認識のもとに検討を進め、関西全体での健康・医療データの連携活用基盤の構築ですとか、健康・医療とITの知識の両方を持っているデータサイエンティストの育成などが不可欠であるという認識のもとに、さらなる取り組みを進めてまいりますので、ご理解をいただきますれば幸いです。

広域インフラといたしましては、北陸新幹線の敦賀以西の整備について、昨年12月に関西広域連合と京都、大阪、そして、関西経済連合会の共催で北陸新幹線（敦賀・

大阪間)建設促進決起大会を東京都内で開催させていただきました。そして、政府与党や国交大臣に1日も早い大阪までの全線開業について要請をいたしております。このほか、リニア中央新幹線の大阪乗り入れの早期実現、空港・港湾とそれらを連携する高速道路や、主要都市間を連絡する高規格幹線道路とのミッシングリンクの解消などを国に積極的に働きかけております。

あわせて、この4月には3空港、関空・伊丹・神戸空港が実質的に一体運用が開始されます。これらの空港の強みを生かした最適活用を目指していく必要があります。あわせて、関西圏域の空港について、今後とも官民が一体となって取り組み、効率的な活用を図っていくべきと考えますので、よろしくご指導をいただきたいと思っております。

第3期広域計画では、女性の活躍する場の拡大に向けた取り組みを行うこととさせていただいております。日本で最も女性の活躍できる地域・関西を目指しまして、官民協働で「関西女性活躍フォーラム」を立ち上げました。働く女性の活躍をテーマに今後とも取り組んでまいりますので、関西広域での機運醸成や意思啓発などの取り組みをよろしく応援いただきたいと存じます。

災害でございますけれども、我が国の防災・減災のリダンダンシーの確保や、首都直下型地震、南海トラフ地震などの大規模広域災害にも対応するためには、関西と関東とに拠点を置いて、2つの拠点が相互補完する体制が必要ではないかと提案をいたしております。関西広域連合では、かねてより防災庁の創設、つまり、事前防災の必要性を強調させてきていただきましたが、昨年、研究会の方から報告書が取りまとめられ、防災庁の必要性等について広く国民的理解を得る必要がございますので、今後とも経済界と連携しながら防災庁設立に向けた取り組みを進めてまいります。

政府機関の移転につきましては、文化庁の京都への全面移転、消費者庁の徳島での消費者行政新未来創造オフィスの設置、統計局の和歌山での統計データ利活用センターの設置などは閣議決定されております。広域連合では、政府機関等対策プロジェクト

トチームを設置しながら取り組みを進めております。これまでの誘致に当たりまして、また、これらの機関の活動につきましてご協力いただきますことに感謝を申し上げますとともに、関西の力を結集して、さらに推進を図らせていただきますので、よろしくお願いたします。

また、第3期広域計画の推進に当たりましては、これからフォローアップの体制をつくりますので、またご意見等よろしくお願いを申し上げる次第でございます。今後とも関西の多様性を生かしながら、関西よく一つ一つと言われますが、そのような多様性を生かしながら、しかし、関西として1つにまとまって共通課題に取り組んでいく、この基本姿勢で臨ませていただきます。今後とも関西経済界の皆様のご指導、ご協力をよろしくお願いたします。

限られた時間です、皆様にご発言いただき、意見交換会が実り多きものになりますことをお祈りしております。どうぞよろしくお願いしまして、ご挨拶にさせていただきます。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男）　　続きまして、関西経済連合会、松本会長からご挨拶を賜りたいと存じます。よろしくお願いたします。

○関西経済連合会会長（松本正義）　　関西経済連合会の松本でございます。

井戸連合長を初め、知事・市長の皆様におかれましては、大変お忙しい中、関西経済会との意見交換の機会を賜りまして、また、昨年8月の関経連との意見交換での合意を受けまして、今日、咲洲庁舎での開催、夢洲の展望視察を実現いただきまして、大変うれしく思っております。ありがとうございます。

今回でこの関西広域連合との意見交換会というのは、これ、私のスピーチの内容によりますと12回となっておりますけれど。

○関西広域連合長（井戸敏三）　　1年に2回やったことがあります。

○関西経済連合会会長（松本正義）　　さようです。

○関西広域連合長（井戸敏三）　　失礼しました。

○関西経済連合会会長（松本正義）　　そういうことではありますが、もう大変長い歴史を持っておるわけでありまして、この場を、本当に関西をよくするために自由なディスカッションというのが非常に重要であろうと私自身、第1回目に参加させていただいたとき以来考えてございまして、これからたくさんプレゼンターがそれぞれのアイテムに応じて意見を申し上げて、それを行政にアドバイスをいただくということでございますが、よろしく申し上げます。

今、井戸連合長がいろいろと、この関西にはいろんな懸案事項があり、やるべきことがあります、大変重要なことがあります、もう多岐にわたってディスカッションをする必要があるわけですが、今日は時間も限られておりまして、私の方からは2点だけお話ししたいと思います。1つは万博です。もう1つは北陸新幹線の早期開業でございまして、先般、決起大会を東京で、井戸連合長にも来ていただきまして訴えたところでございます。

したがいまして、まず、万博でございまして。昨年、事務次長が参りまして、いろいろなところから日本、関西を見ていただいて、いろいろなアドバイスを得ているわけで、非常に重要なことであるなど私どもは思っています。経済界もそれを受けてレクチャーを会員の皆さんにご披露申し上げて、経済界としてどういうことが本当に真剣にやれるかということいろいろ考えております。

それで、いろいろPRやポスター等々をやっておりますが、やはりピンポイント的な対策が必要になってきている時期ではないのかと思っておりました。もちろん3月に視察団が来るわけですが、そのときに日本と関西が、一般の市民が、ぜひ2025年、大阪万博ということの非常に熱が上がっているということを示す必要があるわけですが、何せこれ投票でございまして、入れてもらわないと困るという話で、私どももいろいろ考えて、2名パリに常駐させることにしているんですね。ピンポイント的に投票のところをつかまえにいくということは今考えてまして、2月から某商社の1室に机を置きまして、フランス、パリの中で、この人は投票してくれるのでは

ないのかというのを見つけながら、いろいろとお願いしたいということを考えております。

いずれにいたしましても、B I Eが3月に来ます。そして、いい報告をしていただくように官民挙げてやっていきたいと思っております。

それから、若干I Rの件についてお話をさせていただきたいんですが、経済界、いろいろ意見がありましたが、I Rというのは非常に重要なインバウンドで、観光産業としてのトリガーになるということで私ども全員一致しております。従いまして、万博のそのタイミングが今どうなってるのかよくわからないんですが、とにかくI Rを夢洲に持ってくると、それを、その影響を関西一円、そして日本一円に及ぼしていくということを考えておりますので、いろいろございましたが、経済界は一致してI Rを夢洲でやるということにしてございます。

それから、北陸新幹線であります。この前も、2046年開業予定では、こんなふうしようもないなというような、関西弁的に発想を皆さんの先生方にお伝えしてございます。それと、北陸新幹線というのは、よく考えますと、関西と北陸というのは非常に大きなきずなで、パイプでつながっていたように思っております。従いまして、これを、我々の方から熱意を関係部門に伝えて、政府に伝えて、何とか2032年とか3年、長くて3年のころに、予算の関係があって、かなり無理をしないと2030年とか32年には開通しないと思っておりますが、2022年、敦賀が終わった後、すぐやっていただくように関係部署に働きかけをしなくちゃいけないというのが、今、経済界の考え方でございます。

これ、整備新幹線が日本中にありましてね、二階さんのところに行ったら、金あるのか言うから、金は何とかしないといけないんじゃないですかというような話をするんですが、2046年、47年はあまりにも遠過ぎるので、関西の財界としましても、北陸新幹線早期実現ということでやっていきたいと、皆さんと一緒に働きかけていきたいと思っております。

時間も限られておりますが、今日は本当に有意義な交換会であることを願ひまして、簡単でありますけども私の挨拶とさせていただきます。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございます。

それでは、意見交換に入りたいと思いますが、初めに本日の進め方についてご説明いたします。まず最初に各経済団体の皆様からご意見をいただきまして、全てのご発言をいただいた後に広域連合の委員、副委員等から順次ご発言をさせていただきます。その後、時間が許す限り自由な意見交換会の場とさせていただきたいと考えています。

本日は15時までということで時間が限られておりますので、申しわけないですが、お一人3分程度ということを目安でご発言をお願いしたいと存じます。よろしくご協力お願いいたします。

それでは最初に大阪商工会議所、立野副会頭、よろしく申し上げます。

○大阪商工会議所副会頭（立野純三） 大阪商工会議所の副会頭の立野です。よろしく申し上げます。

私からは第4次産業革命分野の技術を活用した新技術の創出について申し上げさせていただきます。

大阪・関西を力強く成長させるためには、イノベーションや新たなビジネスの創造が不可欠です。大阪商工会議所は、本年度からスタートしました中期計画「たんと繁盛 大阪アクション」では、AIやIoT、ビッグデータという第4次産業革命分野におけるオープンイノベーションの推進や、その成果を活用した実証事業に力を入れております。具体的には、「実証事業都市・大阪」の実現に向けて、昨年2月に大阪市と大商で包括提携を締結し、大阪市が管理する施設や公共空間を活用した民間企業による実証実験の実施を支援しております。

また、大阪工業大学の梅田キャンパスを活用し、大企業や中小企業、ベンチャー企業などの多様なアイデアを融合させまして、新たなビジネスに挑戦をするオープンイノベーション拠点づくりを目指しております。

一方、新しい技術やアイデアにチャレンジすると、既存のルールや規制にぶつかることも多く、そこで、それら規制を一時停止するレギュラトリー・サンドボックス制度の創設も今、政府に訴えております。

オープンイノベーションにつきましては、関西では既にライフサイエンス産業において実績があり、産学官の連携による産業振興やベンチャー企業の集積は実現しております。商工会議所レベルでも、京阪神3商工会議所が緊密な連携のもと政策提言や具体的なビジネスマッチング事業の実施をし、一定の成果をおさめております。こうした広域連携はオープンイノベーションにおいても期待されるところであり、各自治体、経済団体におかれましては、関西圏でも新ビジネスを進める土壌づくりに向け、一層の連携・協力関係の強化をお願いしたいと思います。

新ビジネスを興すなら大阪・関西で、そのための実証実験をするなら大阪・関西という認識が広まり、新ビジネスに挑戦する人や企業をどんどん発掘していきたいと思っております。そして、2025年万博では究極の実証実験、実験都市・大阪の実現を国内外に示し、万博終了後も国内外の企業は大阪・関西で新たなビジネスに挑戦し続ける、そんな好循環をつくり出していきたいと思っております。

また、万博で実証実験を行うためには、当然ながら万博誘致を勝ち取ることが先決です。大阪商工会議所では、一般の方々の認知度を上げるため、昨年10月から万博ステッカーキャンペーンをスタートいたしました。京都や神戸の商工会議所にも参画いただき、京阪神のタクシー3万台を初め、鉄道自動改札機やコンビニの店頭、銀行のATM、飲食店などさまざまな場所にステッカーを掲示いただき、その規模は28万枚となる予定です。今後は商店街とも連携をし、万博応援セールなどを行い、地元機運の一層の盛り上がりを図っていきたく思っております。

以上です。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございました。

続きまして、京都商工会議所、立石会頭、よろしく申し上げます。

○京都商工会議所会頭（立石義雄） 京都商工会議所、立石でございます。

私からは「未来から選ばれ 世界に輝く K A N S A I」の実現に向けまして、その鍵となります文化庁移転と万博誘致について申し上げたいと思います。

まず、文化庁移転の万全の備えにつきまして申し上げますと、ご承知のとおり、東京オリンピック・パラリンピック後の2021年度中には文化庁が京都・関西に全面的に移転してまいります。この歴史的な移転をオール関西の連携のもとで成功させ、関西各地の多様な文化資源を生かした地方創生の取り組みをさらに加速させていかなければならないと、このように考えております。

昨年、4月にはその先行移転組織であります「地域文化創生本部」が既に京都・東山に設置されまして、新たな文化行政の展開に向けた取り組みを約40名で始動を始めております。同本部の運営に当たりましては、地元の行政、経済界、企業だけでなく、関西広域連合の各自治体からの職員を派遣いただいております。心より感謝を申し上げます。

京都御苑に近くございます京都府庁の敷地の中へ本格移転の場所あるいは規模が決まりまして、今後は文化庁の意向も確認しながら、万全な体制で受け入れの準備を進めていく必要がございます。関西広域連合には、本格移転に向けた備えにつきましてもぜひご支援、ご協力をお願い申し上げます。

現在、関西広域連合では、第3期の広域計画、あるいは関西観光・文化振興計画に基づきまして各事業を推進されておられますが、関西の各地域に根差した多様な文化・伝統・先端産業といった強みを生かしながら、文化庁と連携して関西全体の活性化を進めていくことがますます求められております。

例えば京都商工会議所では、文化×産業の創造をキーワードにいたしまして、文化を生かした伝統産業の新たな振興や観光振興などに取り組んでおります。今年3月には、文化庁地域文化創生本部の協力も得ながら、京都、大津、奈良の3都市の商工会議所が連携した広域文化観光事業であります「京津奈・古（いにしえ）の三都めぐ

り」を実施いたします。この事業は、古来より都あり、数多くの歴史的な文化資源を有するこの3都市共通の魅力にスポットを当てまして、文化財の保全と活用をテーマに、魅力ある文化体験あるいは深い学びを提供するものでございまして、旅行会社の協力のもとで、現在、体験型の旅行商品として開発、販売をしております。

このような取り組みは関西広域連合のあり方の一例でもあるのではないかと、このように考えております。こうした文化財を観光自然として活用することは文化庁の新たな施策の柱の1つでもありまして、その具体化に関西各地の経済界や自治体に取り組むことによりまして、関西の魅力をさらに高め、広域での観光客の誘客、周遊にもつながると期待しております。

次に、万博誘致の成功に向けまして一言申し上げておきますと、2025年の万博は、豊かな未来社会に貢献する関西企業あるいは産業の知恵を世界へと発信する機会となるだけではなくて、国内外の来場者に関西の多様な文化の魅力を発見・体験していただく大変大きなチャンスでもあります。京都では、京都迎賓館を生かした国際儀典都市として、いわゆる歴史や文化財だけでなく、おもてなしを初めとする生活文化などを発信して、大阪の万博会場に集客するために京都を活用していただくことでぜひ貢献してまいりたいと、このように考えております。

関西広域連合におかれましては、引き続き関西の各地域で機運を高める取り組みを進めていただきたいと思います。京都経済界としても、機運醸成あるいはB I E関係者への古来文化を含めたおもてなしなど、今後もしっかりと対応していきたいと考えております。いずれにしましても、万博を一過性に終わらせることなく、関西の将来のためにもレガシーとして残すためにも、関西全体として取り組んでいけるような運営が必要ではないか、このように思っております。

以上でございます。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございました。

次に、神戸商工会議所の植村副会頭、よろしく申し上げます。

○神戸商工会議所副会頭（植村武雄） 神戸商工会議所副会頭の植村でございます。
どうぞよろしく願いいたします。

最初に井戸連合長のお話を聴いていまして、経済活動には本当に市境も府県境ももともとないものですが、意外と我々やっぱり足元ばかり見ている、視野が狭いななんてちょっと感じまして、広域の広い視野でいろんな施策を促進・推進しておられるということがよくわかりまして、改めて連合長ほか委員の皆様方、広域連合のご指導に心から感謝申し上げますとともに、敬意を表したいと思う次第であります。

井戸知事の挨拶の中で出てきました幾つかの話の絡みで、神戸商工会議所としてご報告申し上げたいと思います。

1つ、医療・産業都市につきましては、私どもの会頭は今、シスメックスの家次さんということもありますけれども、随分力を入れて、おかげさまでもう300社以上が集積するクラスターの形をつくり上げているということでございますけれども、その分野につきましても、関西健康・医療創生会議、今日、この会の後にあるようでございますが、それを立ち上げられて、リードしていただいておりますということで、ありがたく思っている次第でございます。

また、広域観光の面で関西観光本部が立ち上がって、遅ればせながら神戸も昨年にDMOですか、神戸観光局をスタートさせて、私どもの副会頭、アシックスの尾山さんを長にして、新たな広域観光あるいはインバウンド等々についての取り組みを進めている、これも関西観光本部を作って広域観光ということでご指導いただいているたまものでございます。

また、ゴールデン・スポーツイヤーズということで、スポーツ産業振興というのも商工会議所の関係でも委員会を作って、極めて前向きに、医療・産業との絡みも含めながらフィールドを広げていこうと、こんなことで取り組んでいるということをご報告しておきます。

次に、インフラ関係ですが、鉄道や3空港の問題とかいろいろありますけれども、

私から今日は道路の話、道路インフラ、広域の道路の交通インフラの話をちょっとさせていただきますと、おかげさまで、もうここにおられる方、皆さん方が一致して請願等もしていただいた結果、私どものところが密接に絡んでいます大阪湾岸道路の西伸、西へ延ばすというものです、六甲アイランドで止まっていますのをポートアイランド、そして長田の方に延ばしていくという、海上ですから大変な難工事、大変なお金もかかるんですが、その事業化がもう決まりましたと、資金負担等についても本当にみんなということで決めていただいたということです。

それから、ご案内の淀川左岸線延伸の話でございますとか、ホットニュースでは、事故等があって遅れていました新名神道路が川西から神戸に繋がるというようなことで、大都市圏、都市圏競争という目で見たとときに、ちょっとやっぱり関西は負けていたのではないかなと、そういう交通インフラという意味でね、ぜひこの整備を促進していただくと。

これは産業・経済が基盤のインフラであるものでもありますが、やはり地域の生活とかいろんな面で、文字どおりインフラでありますから、その整備が決まったこと、これをもう一日でも早くというつもりで促進していただきたい。関西人独特のせっかち、いらちというのがあるので、それで言うわけじゃありませんが、やっぱりちょっと時間がかかり過ぎていると、そういうことが多いので、我々としてはこれからも関西一丸となって、ちゃんとシナリオ、スケジュールを意識して、公共事業といひましようか、道路整備なら道路整備のスピードアップ、実行のスピードアップをやっていくことが最大のポイントではないかなというふうに今思っている次第であります。

それから、いま一つは、万博も本当にみんなでやって、決まったとして、時間があるようで意外とないものですから、やはりスピードアップという何か時間軸というのが何や全てのプロジェクトの基本になるような気がしますので、これにつきましてもオール関西ということで、それに絡んだ、先ほどの道路等のインフラ整備も含め、現場も含め、スピードアップして準備していく必要があるのではないかなと。

ただ、決まらなきゃ話になりませんので、3月には視察に代表団の方、本部の方が来られるということなので、3月に向けて精いっぱい、どれだけ我々が誘致に燃え上がってるかということがわかるような活動をすべしというお話も頂戴しております。神戸商工会議所としましても、関経連さんや大阪、京都の商工会議所さんや、ここにおられる皆さん方と連携してやっていきたいということで、とりあえずと言うと大変失礼になるかもしれませんが、商工会議所の会員1万1,000ございます、全員が誘致の会員、促進の会員になるようにというふうなこと、あるいはタクシーにステッカーを貼るとか、あるいはまた昨年の秋にありました神戸マラソンで署名活動をするとかいうことで、あらゆる場面で精力的に機運の醸成、PR活動に取り組んでいるところでございます。

関西経済界と関西広域連合の連携は年々強固なものになっておりますけれども、ぜひこの万博誘致に関して、広域連合の全ての府県市におかれましても一層緊密な連携、より積極的な活動を進めていただきたい、我々も精一杯頑張りますということをお願い申し上げます。ありがとうございます。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございます。

それでは次に堺商工会議所、前田会頭、よろしく申し上げます。

○堺商工会議所会頭（前田寛司） 堺商工会議所の前田でございます。

発言の機会を賜りまして、ありがとうございます。私からは3点お願い申し上げます。

まず最初に、自転車を活用した広域観光につきまして、初めに、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録につきましては、昨年7月の国内推薦候補の選定に続き、先週には国として正式にユネスコに推薦することが閣議決定されましたこと、これもひとえに皆様からの厚いご支援のたまものであり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後は平成31年度の登録に向けまして、これまで以上に官民一体となった情報発信、機運醸成が必要であると考えております。関西広域連合におかれましては、世

界文化遺産登録実現に向け、オール関西で取り組みを推進していただくとともに、登録実現後もさまざまな連携にご協力賜りますことを何とぞよろしくお願い申し上げます。

さて、最近の訪日客の関心でございますが、「モノの消費」からイベントやサービスを体験する、いわゆる「コト消費」というべきものへと移りつつあります。例えば、サイクリングは近年我が国でも人気のアクティビティ、活動となっており、既に関西では琵琶湖、淡路島を1周する通称「ビワイチ」、「アワイチ」など、国内有数のサイクリングルートが開通しているほか、今年の3月には、「わかやまサイクリングフェスタ2018」を初め、大規模なイベントも予定されております。

泉州地域では、インバウンド誘致等による地域活性化を目的に、阪南7商工会議所からなる泉州地域広域観光連携協議会におきまして、観光振興の施策の1つとして、サイクルツーリングの環境整備を検討していこうと考えております。将来的には、これに加えまして、先に申し上げました百舌鳥・古市古墳群と世界文化遺産を結ぶコースや、自然遺産などを巡るルートを整備して、それら関西全域に広げるとともに、関連イベントを各地で定期的で開催する等、自転車観光を勧奨してまいりたいと考えております。その実現に向けまして、皆様方のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2つ目でございますが、関西3空港の一体的な運営につきまして、本年4月から関西国際空港、伊丹空港を運営する関西エアポート株式会社が神戸空港の運営を手がけることとなり、関空・伊丹・神戸の関西3空港の一体的運営が始まります。3空港には関西経済の成長に寄与することが求められるところではありますが、併せて、今一度、3空港の役割分担を確認する必要もあるのではないかと考えております。

関西国際空港は、近年、格安航空会社LCCを中心に便数が増え、インバウンド利用者数が過去最高を更新しております。一方では、欧米路線など長距離国際線の便数が減少傾向にあることから、国際ハブ空港として解決すべき課題が残っております。

今後、関西の国際ハブ空港としての機能強化を図るべく伊丹・神戸両空港がどのように補完していくのかという3空港の一体的運営、機能分担による最適利用につきまして、関西全体として議論していただき、潜在的な航空需要を掘り起こしていくことが必要であると考えております。皆様におかれましては、オール関西で連携して取り組んでいただくようお願い申し上げます。

最後に、関西の文化振興につきまして、関西では伝統芸能を初め、数多くの文化が熟成されております。我が国を牽引する文化の首都たる役割を果たす必要があるかと存じますが、そのためには文化・芸術を身近に感じながら、しっかりと次の世代に継承する機会創出が一番重要であると考えております。

現在、堺市におかれましては、来週オープンに向けて、オーケストラやオペラ等を上映できる大ホール等を備えた芸術文化ホール、「フェニーチェ堺」という愛称がついております、フェニーチェというのはイタリア語で不死鳥という意味だそうです、それが、その建設が進められておりまして、今後、関西の文化発信力の向上に資する拠点になるかと存じます。皆様におかれましては、文化施設間の連携事業等を通じて、さらなる情報発信にご協力いただきますようお願いいたします。

私からの発言は以上でございます。ありがとうございました。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございます。

それでは、続きまして関西経済同友会、鈴木代表幹事様、よろしく申し上げます。

○関西経済同友会代表幹事（鈴木博之） 関西経済同友会代表幹事の鈴木でございます。

私からは万博・I Rの夢洲への誘致とベンチャーエコシステム、この2つをお話したいと思います。先ほど松本会長からも触れられておられますが、夢洲での万博開催には、関西全域の新たな魅力を創造するという点がありますので、我々も全力を挙げてこの誘致を獲得するというところで現在走っているわけでございます。同じように夢洲を候補地としまして、M I C E・I Rの誘致も進めておりますが、これが誘致で

きますと、2025年が万博とI Rで2.6兆円、その後、万博が終わっても毎年1.1兆円程度の経済効果が見込めるという試算があります。したがって、この2つを進めていかなければいけないと考えております。

I Rにつきましては、依存症などの側面なども懸念されるわけですが、シンガポールなどの事例を見ますと、入場制限などを講じることで、それを抑え込んでいくということは十分に対処できると考えております。

また、今年は国会でのI R実施法案の成立が見込まれます。その後、区域認定がございしますが、万博とI R両方を誘致していくという意味で非常に重要な1年になると考えております。両方できるということは、交通のアクセスなどのインフラ整備とか、先ほどの経済効果ということが期待できるということで、政府、地元の自治体、経済界が一体となって、この両方の誘致がぜひ実現する方向にしたいと考えております。

また、万博の期間中にまだI Rの建設ができてないということになりますと、安全性とか景観の問題がございしますので、我々は2024年、万博の1年前にはI Rが開業できるように取り組んでまいりたいと考えております。

もう一つは産業振興でございますが、関西経済の持続的な発展には、国内外から企業とか人材を呼び込めるような戦略の立案、環境整備が必要だと考えております。そのためには産学官が一体となって具体的な取り組みを進めていかなければいけないわけですが、I o T、A I など技術革新が進展する中で、その担い手でありますベンチャー、スタートアップの存在感が高まりつつあります。

また、これらを生み出すエコシステム、これは世界でも都市間競争が激化しているのが実情だと思います。関西には優れた企業、大学、研究機関が集積しているにも関わらず、新産業やベンチャーを生み出せていないという現状に非常に強い危機感を我々は持っております。同友会の方でもシリコンバレー、欧州、イスラエル、深圳など、ベンチャーエコシステムがどういうふうにつくられているかということ进行を考察しております。

また、国内では福岡市が新しく起業しやすい都市だということを世界中に発信していて、海外からもスタートアップが集まってくるという環境になりつつありますので、我々関西もこの福岡の事例を1つ手本にしてもいいのではないかということをお大阪府に申し上げておるところであります。

関西におけるベンチャーエコシステムは幾つか支援組織があるのですが、これらに、横串を刺してネットワーク化していかなければいけないとも考えているので、広域連合並びに自治体の皆さんにも、このエコシステムの構築に向けてのご協力、ご理解を賜りたいと考えております。

私からは以上であります。ありがとうございました。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございました。

それでは次に、滋賀県商工会議所連合会の大道会長、よろしく申し上げます。

○滋賀県商工会議所連合会会長（大道良夫） 滋賀県商工会議所連合会の大道でございます。

私からは、広域観光の情報提供のあり方につきまして要望をさせていただきます。

旅行関係業者による国内旅行者の観光宿泊旅行動向調査によりますと、旅行において意識したことに対する回答として、旅行先でやりたいことがあれば、多少予算がオーバーしてもやるが58.1%、旅先での旅行行動、飲食とか体験プログラムでございますが、これは現地で決めるというのが66.8%となっております。また、観光庁の訪日外国人消費動向調査によりますと、初回訪問時は日本食、ショッピング、繁華街の町歩きへの参加が高い一方で、2回目以降は花見、紅葉、雪の見物、歴史・文化体験、日常体験など、日本の生活文化体験へのニーズが高くなる傾向が窺えます。

こうした状況の中で、各府県におかれまして、「モノ消費」から「コト消費」への転換など観光地と提供できるサービスの磨き上げ、そういったものに熱心に取り組まれておると思います。

私ども滋賀県でも、観光振興や交流人口の増加を図る地域活性化策としまして、サ

イクリングしながら琵琶湖を一周する「ビワイチ」を推進しております。琵琶湖を一周するサイクリストが平成27年度には5万2,000人でしたが、平成28年度では7万2,000人、本年度は9万人を超える勢いで年々増加しております。また、「ビワイチプラス」といたしまして、地域の個性豊かな自然、文化、食、人との触れ合いを通じて経済波及効果を大きくするよう、琵琶湖沿岸部だけでなく内陸部への誘導などを行っております。サイクリングイベントが県内各地の活性化につながる取り組みとして推進をされています。

そこで要望でございますが、現在、ホテルや旅館等の宿泊施設やインフォメーションセンターに設置されている観光情報はその府県内のものが中心で、広域的な情報は少ないのではないかと思います。旅行者がもう一足他府県へ足を延ばし、飲食や体験プログラムが楽しめるよう、行政の指導・連携によりまして、お互いが他府県情報を相互に提供できるシステムを構築していただければと思います。

これによりまして、近隣府県はもとより広域的な相乗効果も生まれ、旅行先の拡大、滞在期間の延長、消費の拡大と、これまで以上の波及効果が期待できると考えます。行政に音頭をとっていただき、このような取り組みをお互いが進めることにより、圏内の旅行者が府県の境界を越えて広範囲に長期間の旅行を楽しんでいただけるよう、関係機関へ働きかけていただきますようお願いいたします。

以上でございます。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございました。

それでは次に、奈良県商工会議所連合会、植野会長、よろしく申し上げます。

○奈良県商工会議所連合会会長（植野康夫） 奈良県商工会議所連合会といたしましては、交通インフラの整備による地域活性化ということで、奈良県の現状を踏まえ、お願いをいたします。

奈良県は、他府県と比べまして道路整備の遅れが観光や、あるいは企業誘致、防災などさまざまな面で発展阻害の要因になってきました。特に物流に関しましては、

100%を事業者による輸送に依存している県でありまして、幹線道路の整備は極めて重要となっております。

しかし、現状では、一般国道の改良率は74%、全国47位でございます。全道路改良率48%、これも46位ということで、全国最低レベルとなっております。中でも県南部の地区、五條・吉野地区に至りましては全国平均の約半分の状態ということで、平成23年の紀伊半島大水害の折には土砂崩れや、あるいは国道、県道の通行止めが多発するなど、甚大な被害がもたらされることになりました。

これまで京都・奈良・和歌山を南北に結びます京奈和自動車道の早期完成に向けまして、行政や県下の関係団体とともに長年要望を続けてまいりました。その結果、大和御所道路の御所インターから五條インターチェンジが開通いたしまして、阪和道を通じまして関西国際空港に直結された効果もありまして、中南和地域への企業誘致が進んでおります。これで京奈和道の約73%が開通したことになりますので、残る大和北道路、中でも奈良インターチェンジから京都の木津インターチェンジ、この間の未事業化区間の事業化に向けまして1段ギアを上げていく必要があると思っております。

そこで、昨年11月、新たに関西高速道路ネットワーク推進協議会に奈良県とともに参加をさせていただきました。この協議会では、首都圏や中部圏に比べまして関西環状道路の整備が遅れていることで観光や事業振興に大きな支障となっているため、ミッシングリンクの中でも特に整備による効果が期待できる道路の事業化に向けて活動を行っております。今月も関西経済連合会を初め、メンバーの皆さんと一緒に要望活動に参加をさせていただきました。奈良県においては、特にこの大和北道路の平成30年度の事業化に向けて関係省庁への要請を行っております。関西で一体となった取り組みによる効果をぜひ期待したいと思います。

観光面ではありますが、関空へ海外からの便数が大変増えているということもありまして、奈良県の訪日外国人数も大変増えておりますが、何と申しましても滞在時間が短いということ、日帰り観光が多いため1人当たりの消費額の低さというのが長年の

懸案となっております。近年、JR奈良駅や近鉄奈良駅周辺においても新たなホテル建設がなされておりました、2020年にはJWマリオットホテルを初め、奈良公園周辺にもグレードの高い魅力的なホテルが建設予定となっております。これらの計画を着実に進めることで一層の宿泊者増を期待いたしております。

奈良県は3カ所の世界遺産を有するという大変恵まれた地域であるにもかかわらず、南北道路がつながっていないため、来訪される観光客の方々にご不便をかけておりますし、また、周遊・滞在型観光のチャンスを逃している、という結果となっております。交通アクセスが改善されることでこれらが線で結ばれ、観光振興のみならず、人口減少が進む南部地域の振興にも結びつけていきたいと考えております。

当連合会といたしましては、この京奈和自動車道大和北道路の事業化に向けまして、ぜひ併せて広域観光に対する連携をよろしくお願いしたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

以上でございます。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございます。

それでは次に、和歌山県商工会議所連合会、片山会長、よろしくお願いたします。

○和歌山県商工会議所連合会（片山博臣） 和歌山商工会議所連合会の片山です。

うちの方からはロボット競技のコンテスト、これの大会の開催を通じた地域の活性化、それと若い世代の人材育成について発表させていただきたいと思っております。

私ども商工会議所では、今年の3月31日から2日間で、いわゆるロボカップのジュニア部門ですけれども、ロボカップの全国大会、これを和歌山市内の会場で開催することにしております。これは、会議所と和歌山市、和歌山大学、この三者で産業振興のための連携協定を結んでおりました、その協定に基づくものでありまして、和歌山県の方にもご協力いただきまして、いわゆる地域の活性化とジュニア世代の人材育成、これを目的として開催するものであります。

ご承知のとおり、このロボットコンテスト、ロボコンの競技会、大会ですけれども、

これ、各地で予選を行いまして、それを勝ち抜いたチームが全国大会に参加して、その上位の2チームが世界大会へ出席すると。今年はモントリオールで世界大会が開かれるようではございますけれども、そこへ参加するということになります。

このロボコンは、いわゆる自立型ロボットの競技ですので、参加者が自分でプログラムを組んでロボットを作って、そういったもので競技をするものですから、いわゆるロボットを作るプログラミングの知識とか、あるいはそれを自分で作っていくという製造・設計、これの技術、これを習得しなければいけないということ。それに加えて、チームの対抗でございますので、いわゆる子供たちの共同学習とか、あるいは協調性、これも育むということができるということで、そういったことを目的に開催するものであります。

ちょうど2020年からですか、小学校の教育課程にプログラミングというのが導入されるということになっておりまして、そういう意味でも、今後ジュニア教育、これを進めていく上で大変時宜を得たイベントではないかと考えております。

このロボカップジュニアの全国大会の開催は、これまで日本各地で持ち回りで行われておりまして、昨年は岐阜県の中津川市で行われたと聞いております。これを和歌山市としては、1回切りのイベントで終わってしまうというのではいかにももったいないということで、ずっと和歌山市で今後、開催し続けていただきたいということで要望しておりまして、このジュニアのロボットコンテストを和歌山市で今後3年間とりあえず開催をしましよと決定していただいております。

そういうところから、和歌山県では既に御坊市で、実は自立型のロボットではないですが、いわゆる普通のロボットの、操作するロボットですが、このロボットフェスティバルがもう11回にわたって御坊市でも開催をされているところでありまして、今回もこのロボカップジュニアの開催と併せて、いわゆるジュニア部門のロボットコンテストの分については和歌山というふうに全国的に認知されるような形に持っていきたいなと我々としては思っております。

こうした取り組みによりまして地域が活性化されまして、また、今後非常に必要とされます理工系の人材の育成、こういったことに大いに資することができるのではないかと期待しておりまして、本大会の和歌山市での開催について大いにPRをしていただいて、本大会への出場チームの参加要請等々について、オール関西で、このイベントを応援していただければと思っております。

以上です。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございました。

それでは次に、鳥取県商工会議所連合会、藤縄会長様、よろしく申し上げます。

○鳥取県商工会議所連合会会長（藤縄匡伸） それでは、2点お話をさせていただきます。

1点目が、昨年12月に兵庫県の豊岡商工会議所と京都の宮津、それから京丹後の会議所、それと私どもとで共同の決議を行いました。1つは、山陰近畿自動車道の早期の全面供用、2つ目が、日本海沿岸地域の発展、3つ目が、交流人口の拡大を図るためにいろいろやっつけようという3つの取り組みにつきましての共同決議であります。地域の観光振興、産業振興を推進しようとするものでございます。

それから2点目は、昨年11月の末に北前船寄港地フォーラムを鳥取市で開催をいたしまして、これにはロシア、韓国、中国等からもおいでをいただきましたし、鹿児島市にも毎回参加をしていただいております。これは、北前船はご承知のとおり北海道から山口から瀬戸内海に入って大阪ですが、鹿児島は北前船の昆布の恩恵を非常に受けておられたということで、毎回参加をされております。次回は、何か全く関係がわからないんですが、中国の大連で開催ということでもあります。このフォーラムにおきましては、「環日本海新時代」というテーマを据えてやらせていただきました。これは、我々鳥取商工会議所風に言わせていただきますと、「もう裏日本とは言わせないぞ」という気概と希望を示すものでもございます。

たまたまといいますか、11月でしたから、全国から、あるいは外国から1,100人以

上お集まりをいただいた皆さんに、「蟹取県」でもあります鳥取県、それから「星取県」であります鳥取県、両方とも旬の時期でありましたので、お楽しみをいただいたのではないかと考えております。

以上です。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございました。

それでは次に徳島県商工会議所連合会の中村会長様、よろしく申し上げます。

○徳島県商工会議所連合会会長（中村太一） 徳島県商工会議所連合会会長の中村でございます。

1点目は消費者行政の推進についてであります。先ほど井戸連合長からもございましたけれども、関西広域連合におきましては政府機関等の移転推進について格別のお取り組みをいただき、徳島県では昨年7月に消費者庁「消費者行政新未来創造オフィス」が設置されたところであります。厚く御礼を申し上げる次第でございます。

私ども経済団体といたしましても、昨年10月、地方では全国初となる、「とくしま消費者志向経営推進組織」の設立に参加をいたしました。徳島商工会議所では、12月の正副会頭会議にオフィストップの消費者庁参事官にお越しをいただき、消費者志向経営を初めとする「消費者行政新未来創造オフィス」の取り組みについてご講演をいただきました。消費者志向実施宣言の取り組みを進めるとともに、商工3団体の職員についても、消費者行政やエシカル消費について、消費者庁の担当者をお招きし、研修を積んでいるところでございます。こうした取り組みを関西全域に広めていただき、消費者行政の推進についてオール関西で取り組んでいただきますよう、関西広域連合、そして関西経済界の皆様をお願いをしたいと存じます。

2点目につきましては、多様な人材の活躍の促進と円滑な事業承継の促進についてであります。昨年度の当会議においても発言をさせていただいたところでございますけれども、国においては、今後5年程度を事業承継支援の集中実施期間として、平成30年度税制改正においても事業承継税制の抜本拡充を図ったところでございます。徳

島県におきましては、平成27年4月に徳島商工会議所に設けました事業引き継ぎ支援センターを中心に関係26機関が連携し、オール徳島で事業承継支援に取り組み、関西広域では大阪府に次ぐ成約件数をあげるなど成果をあげているところでございます。

また、昨年7月には全国初となる徳島県における移住及び創造促進の支援に関わる業務提携・協力に関する覚書を県商工会議所連合会など7団体で締結をいたしまして、移住・創造・事業承継を一体として支援をしているところでございます。残念ながら関西地域におかれましてはまだまだ取り組みが十分とはいえない状況でございますので、地域が一体となって多様な人材の活躍の促進と円滑な事業承継の促進について、なお一層の取り組みをお願いしたいと存じます。

最後になりますけれども、お手元にパンフレットをお配りさせていただいております。少し小さいパンフレットでございますけれども、「とくしまLED・デジタルアートフェスティバル」のご案内を申し上げます。来月2月9日から18日までの10日間、徳島市中心部4エリアにおきまして、徳島県出身の猪子寿之氏が代表を務めるチームラボのアート作品を展示いたします。来年度、歌会始のお題はまさに「光」でございます。関西地域から多くの方々のお越しをいただき、川と森の光のアート祭を存分にお楽しみいただければ幸いに存じます。どうぞ広報の方よろしくをお願いいたしまして、私の発表とさせていただきます。ありがとうございました。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございました。

それでは次に関西経済連合会、角副会長、よろしく願いいたします。

○関西経済連合会副会長（角 和夫） 関経連の角でございます。どうぞよろしく願いいたします。

大阪の企業が東京へ移転を始めてから、関西、明るい時代というのはほとんどなかったように思うんですが、やはり昨年あたりから、私の印象としてはこれほど明るい関西はないのではないかなと感じております。

1点は、企業業績が堅調であること、特に昨年の第2四半期までの売上高営業利益

率で改善ポイントの高かった上位20社をとりますと、大企業がたしか5社ぐらいで、中堅企業が15社なんですね。ですから、まさに関西の中堅企業も頑張っておられるということだと思います。その中で、製薬会社が20社中6社ございますので、やはり関西は製薬が強いなという印象を持ちました。

それと、2点目はまさに、後ほどちょっと触れさせていただきますが、やはりインバウンド、観光産業が非常に伸びているということだと思います。

そして、何よりも3点目の都市間競争、あるいはメガ・リージョン競争におきまして、やはり一番重要なのはインフラ整備であるということ、そして、国の方もインフラのストック効果について一定のご理解が得られるようになったのかなということ、あるいは、道路で言いますと、いわゆる受益者負担という制度が久々に入ったということで、非常に道路、空港、鉄道ともに官民の共通認識が、その都市間競争においては、インフラが大事であるという共通認識が持てたということが非常に大きいと思いますので、この場をお借りしまして心から御礼を申し上げたいと思います。

道路につきましては、先ほど奈良の方からもございましたように、関西のミッシングリンクの最大は淀川左岸線と湾岸線西伸部であります。環状道路のミッシングリンクという意味におきますと、奈良だけが途切れておりますので、この京都、奈良、和歌山をつなぐ環状については非常に重要かなと、かつ、あそこは当然発掘調査をすともういつ終わるかわかりませんので、恐らくかなり深いところをトンネルを掘るということになると思いますけれども、ぜひとも実現に向けて官民あわせて協力すべき事柄かなと思います。

そして、インバウンドですけれども、ご承知のように、昨年、2,870万人ということで、あと1,000万人ちょっとで4,000万になりますから、今の伸び率でいきますと2020年に4,000万という達成が見えてまいりました。

ただ、残念なのは、その中で関西は最も貢献してきたわけですが、この貢献率が、あるシンクタンクの調査によりますと、2014年に関西地区は479万人でして、

これが1,207万人に増えたわけですが、例えば関東はそのとき768万人が1,457万人ですから、ほぼ倍、ほぼ3倍というこの差がありますが、15年の伸び率、16年伸び率、これは全国平均を上回っておりましたけれども、17年は全国平均で19.3%伸ばしているのに、残念ながら関西は17.8%にとどまっている。初めて、この関西が引っ張ってきたと言っていたんですけれども、全国平均を下回ってしまったのかなと。

その中でやはり京都と大阪ですね、この2つが圧倒的に牽引してきたわけです。例えばインバウンド消費額にしましても1兆1,000億円を超えましたが、そのうち大阪府と京都府で約9,000億円ですので、9割を超える消費が残念ながら大阪、京都に集中している、これを何とか広域につなげていかないと、全国平均を下回ったということは、やはり大阪、京都だけが頑張っているだけでもだめなので、関西全体を伸ばしていかないとやはりリーダー的なことにはならないということになると思いますので、ぜひともこの広域観光を進める仕組みを作っていただければと思います。

まさに関西観光本部が昨年11月にDMOになったということですのでけれども、その上に立って、今後3年間のグランドデザインを描きたい、このグランドデザインについて、今年の関西の財界セミナーでも議論をしたいと考えております。

ところが、グランドデザインを描く以上は財源措置が必要になります。例えば、これはちょっと話が外れますが、文化庁が京都に来ていただくのは非常にありがたいのですが、文化庁の予算は1,000億円ですから、GDP比で見ますと、いかに日本の文化事業が劣後しているかということだと思います。とはいいいながら、その1,000億円を増やしてくれということと言っても、それは努力すべきだと思いますが、極端に増えるはずもありませんので、じゃあ地域で頑張るしかないのかなと。そのときに、大阪府には宿泊税を入れていただきました、そして、京都も今年の秋には入れていただけるということだと思います。これを関西広域連合全体で宿泊税を導入していただいて、例えば一定割合、5%でもいいと思うんですね、5%でも、例えば関西全体で50億円を超える宿泊税が入りますから、それのたとえ5%でも、今、今回の資料を見せ

ていただきますと、30年度予算の観光本部の予算が1億1,200万円ですね、ですから、この1億円ぐらいではなかなか、先ほどツーリスト業務とかいろんなご意見が各地から出ておりますが、それには財源が必要でありますので、関西広域連合全体で宿泊税を導入して、一定割合を拠出していただいて、それを文化・観光事業に、それは当然紐つきのお金ですから、それをちゃんと審議して、ここには使おうというのを決めていただくことにはなろうかと思いますが、そういったことをご検討いただければ非常にありがたいと思います。

以上でございます。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございます。

それでは最後になりました、大竹副会長、よろしく願いいたします。

○関西経済連合会副会長（大竹伸一） 関経連の大竹でございます。

私からは企業活動の発展、あるいは広域の観光の促進につながる交通・物流インフラの整備についてお話をさせていただこうと思います。

これまで多々ほかの方々からもいろいろご意見出ておりますが、やはりこのリニアの中央新幹線、あるいは北陸新幹線の早期開通というのは、この関西エリアにとって喫緊の課題だと思っております。これは関西によらず、やはり西日本、そして日本全体といった観点からも非常に大事なことでありますし、一方では、最近いろんなところで災害がございますが、そういった災害に強い国土形成といった観点からも、やはり早期に作るということだと思っております。災害が起こってから、あのとき早く作っておけばよかったなというようなことにならないように、一刻も早く我々は国等に対してしっかり意見を申し述べていきたいと思っております。

また、関東圏や中部圏に比べまして、この関西圏の高速道路、本当に進捗が遅れております。連合長もおっしゃってるとおり、あるいは奈良の方からもご意見出ましたけれども、大和北道路等まだまだ整備すべきものがたくさんございます。そういった中で、財源問題として、受益者負担の考えを入れた高速道路料金の改定につきまして

は、いろいろな意見を述べる会に井戸連合長にも出ていただきまして、あのとき本当に井戸さんにもやはりこれは解決すべきだと非常に力強く言っていただきまして、審議委員の方々も、自治体の長でこれほどはっきり言われた人はいないと言われて、やっぱり思うところは一緒だなということがあります。財源の問題ということにも取り組みながら、受益者負担ということを入れて、ぜひ財源を確保して、先ほどからありますような名神湾岸連絡線、あるいは大和北道路と、こういったものの事業化を一刻も早く推進をしてまいりたいと思います。

鉄道とか道路、それ以外にも空港、港湾、本当にやることは多いわけでありましてけれども、それぞれのインフラに関係する自治体と経済界の連携をさらに強化して、官民一体となって我々も取り組んでいきたいと思っております。

本日ご出席の自治体の方、経済団体の皆様と引き続き連携を深めさせていただくとともに、関西広域連合にも広域自治体としてぜひ調整力を発揮していただきまして、関西全体の官民連携の強化に向けてご尽力いただくことを期待しておりますので、ぜひこれからもよろしく願いいたします。

私からは以上でございます。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございます。

それでは、これまでいただきましたご意見等を踏まえまして、これより広域連合委員、副委員等から順次ご発言をお願いしたいと思います。まず初めに、井戸連合長から総括的にご発言をお願いします。

○関西広域連合長（井戸敏三） まず、今日は本当に各委員全員にご発言いただきまして、それぞれの立場でご意見を頂戴することができました。まず、そのような意味でもお礼を申し上げたいと存じます。ありがとうございます。

まず、万博の誘致につきましては、後ほど松井知事等からお話しただけだと思いますが、吉村市長からもお話しただけだと思いますが、いずれにしてもこの3月が1つのポイントになろうかと思っておりますので、我々といたしましても、B I

Eの事前調査につきましてしっかりと応援をさせていただきたいと思ひますし、ぜひ財界の皆様方にもご協力をお願い申し上げたいと存じます。

また、リニアや北陸新幹線などの大阪への早期開通につきましては、やはり機運をいかに盛り上げていくかということが非常に重要になります。特に北陸新幹線、ほっておきますとまさに2046年以降開通というような形になりかねませんので、私はあえて国土交通大臣には、2030年頃、それから敦賀までの工事が終わったら引き続き北陸新幹線の敦賀－大阪間の工事にかかることを強く要請させていただきました。具体的にアセスの期間だとか、工事期間だとかの過去の事例などを挙げまして、やれないはずはないということを強調させていただいたものでございますので、力をぜひ一緒に合わせて取り組んでいきたいと思っております。

道路の問題は、関西が道路ネットワークでぶつ切れているところが多いということについては、ようやく共通認識になってきたのではないかと思っております。そのような意味で、淀川左岸線や湾岸道路、神戸の西伸部、そして大和北道路など、ポイントの道路の整備がこれからだということがたくさんありますので、そのポイントの箇所につきまして、有料道路事業も活用しながら整備を進めていくという意味での姿勢が必要なのではないかと、そして、できるだけ早く効果を発現させるということを行う必要があると思っております。

イノベーションと新ビジネスにつきまして、同友会の鈴木代表幹事と立野副会長からもお話をいただきましたが、最近の動きを聞いただけで、目で確認したわけでもないのですが、シリコンバレーで働いているインド人や中国人を初めとする外国人の方々の就業ビザが、なかなか更新が難しい状況に今なっているようでありまして、カナダに移住するという動きと、インド、中国など母国に帰るといった動きが出てきていると聞いております。インドや中国の方をいかに、母国まで行くよりも途中下車してもらおうということが非常に重要なのではないかと、どういう作戦でそういう新しいビジネスを切り開いていただく優秀な方々を関西に呼び込んでいくか、これ、

しっかり検討して、そういう環境を作っていけるようにしていければな、このように願っているものでございます。

それから、空港の問題にもお触れいただきました。4月から実質的に3空港の一元管理が始まります。もともと10年ほど前に懇談会を開いたとき、関空は国際拠点空港、そして伊丹が国内基幹空港、それで神戸空港が地方空港、こういう位置づけをしたわけではありますが、あんなに、例えば神戸で言いますと1日30便で、24時間空港なのに10時までしか飛ばさない、国際便はだめというような、そんな規制まで我々ほうんと言った覚えはないのでありますが、勝手に自分たちで解釈して、そういうのを強いているわけでありますので、これは絶対見直してもらわないといかんということであります。ただ、いろいろ立場もありますので、我々神戸の立場を言いましても、一挙にというよりは、現実に対応できるような見直しを行っていくということが重要なのではないか、このように思っている次第でございますので、ご協力をお願いしたいと思います。

観光の面では、サイクリングを前田会頭強調されましたけども、観光だけではなくてサイクリングなど、体、健康を意識しながらスポーツを行っていくということが最近になりまして非常に強調されております。我々のワールドマスターズゲームズもそのような生涯スポーツの一環で取り組もうとしているわけでありますので、スポーツを通じたツーリズムよりは、スポーツを通じた健康という見地から、さらに努力をしていくということが重要だと思っております。

以前は、私はI R、特にカジノ大反対をいたしておりましたが、法律が通ってしまってカジノがもう解禁されることが決まってしまったわけでありますので、決まってしまったことをあれこれあげつらうつもりは全く私自身ありません。ただ、カジノに関わりますギャンブル依存症対策、マネーロンダリング対策、青少年の健全育成への影響、これの3つをしっかりと対策を行いながらI Rを推進していくということにつきまして私も協力をさせていただき、もしかすると本格的に取り組ませていただくと

いうふうになるかもしれませんが、それくらいの事柄であろうと思っている次第でございます。

それから、先ほど広域観光につきまして大道会頭もおっしゃいましたし、また、角副会長も、大阪、京都以外のところが少し努力が足りないのではないかというご指摘をいただいたような気もいたしましたので、やっぱり我々としてどういう取り組みが必要なのか、もう十分に課題を認識しておりますので、積極的にぜひ取り組ませていただきたいな、こう思っております。

特に、ご指摘いただきましたように、日本の生活文化の体験への期待が非常に、大道会長にご指摘いただいたように、高まっていますので、そのような期待に、どのようにそれぞれの地域の特色を生かしながら取り組んでいくかということが重要ではないか、このように思っております。ネットワークを観光の面でもさらに作っていくということだと思っております。

併せまして、藤縄会長から、山陰の商工会議所の決議をしていただいたことはもう我が意を得たりでございます。もともとまさにペリー来航以来、太平洋が日本の世界との窓口になったのでありますが、もともとは日本海が世界との付き合いの窓口だったわけでありまして、日本海の再認識、再評価ということが不可欠ではないかと私ども思っております。残念ながら兵庫では大きな港がつかれませぬので、全て北側の湾が開いてしまっておりますので、大きな冬の荒波には耐え切れませぬので、境港か舞鶴港を活用する、これを生かしながら連携を深めていく、これが基礎条件でありますので、山陰近畿自動車道を早く整備して、連携をとりやすくするようにしていきたいと思っております。

それから、北前船につきましては、日本遺産に福井までが指定されているんです。どういふことなのか、松前から福井までが指定されておまして、終点の大阪が抜けている、その中継地の兵庫も抜けているとかでありますので、二次指定で、関係県一致団結して獲得をしていくようにぜひしていきたいと考えているものでございます。

それから、消費者庁が徳島で活動を展開されましたこと、おめでとうございます。
飯泉知事から人も出せとも言われて、我々も人も出させていだいて協力をさせていただきます。これからも1つ大きなポイントとして頑張っていりますので、よろしくお願いを申し上げる次第でございます。

それから、大竹副会長からも、インフラの整備につきましているろんな形でのご指摘や期待が申し述べられましたが、関西広域連合の調整力への期待を強く述べていただきましたので、我々しっかりとそのような期待に応えさせていただければと思っております。

以上、私から総括的にお答えさせていただきました。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） それでは次に三日月委員、よろしくお願いいたします。

○委員（三日月大造） 滋賀県知事をさせていただいております三日月大造と申します。広域連合では環境保全を担当させていただいております。

私は若輩で、前回の大阪万博を知らないのですが、ぜひ2025年の万博は夢を持って皆さんと連携して誘致のために、また、盛り上げのために頑張っていきたいと思っております。

担当しております環境保全の取り組みもこの万博ですとか関西発展のために大変大事だと思っております、まさに命、生存、繁栄の基盤は自然環境、そして生態系の維持だと、関西はこういったものを大事にしながら経済活動をしてきた歴史がございますので、そういう観点から計画に基づきましてエネルギーの問題ですとか自然共生型社会づくりの推進ですとか環境人材の育成、こういったものにぜひ経済界のご理解、ご協力もいただきながら取り組んでまいりたいと思っておりますし、まさにサイクルツーリズムなど、今、連合長から述べていただいたように、自然環境を肌で、空気で楽しめるアイテムでございますので、「コト消費」PRのためにも関西一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） それでは次に山田委員、お願いします。

○委員（山田啓二） 京都府の山田です。

私は文化と観光を担当させていただいています。随分、観光についてもたくさんご意見をいただきました。2017年に訪日外国人客数は2,869万人になっております。ただ、その内訳を見ますと、各国がほとんど軒並み過去最高を記録しているけれども、特徴的なことは、例えばオーストラリアが伸びた、インドが伸びた、ベトナムが伸びたといっても、東アジアの占有率は逆に増えていて、2016年が72.7%、それが2017年は74.2%になっている。私は、ここに特徴が出ているのではないかと考えておまして、ある面で、観光は伸びているけれども、少し観光バブルになりつつあるのかもしれないと考えております。

と申しますのは、この東アジアの中国、韓国、台湾、香港が日本の4大マーケットと申しますか、顧客になっているわけですが、既に香港の国民の3.5人に1人が日本に来ている、台湾の5人に1人が日本に来ている、韓国も7人強に1人が来ているというところまで来ているわけであります。ということは、団体的な観光客ではなくて、FITを中心としたより専門的な、また、よりマニアックな観光客が増えている。ですから、先ほどおっしゃいましたように、関西の全体が減ってきたというのは、関西はどちらかという団体客を受け入れてきた入門編のところがあって、特に大阪、京都が入門編を担っていた部分がだんだん薄れてきていくので、それに対する対応というものをしていかなければならないと思います。

対応していくためには私は3点あると考えております。1つは広域力の強化、これが大変大きいと思います。インフラの面でいきますと、お話にありましたように北陸新幹線の問題や、関西の3空港をどうやってきちっと使っていくのか、そして、関西環状道路とか関西環状鉄道をどうやって作り上げていくのか、そのあたりが非常に全体としてのまだ見通しが不透明であります。特にリニアと北陸新幹線をどうやって

結合させていくのか、関空とのアクセスをどうやって改善していくのか、こうした基本的な戦略が今、関西にないということは、これからの観光のインフラを考えた場合には大変苦しい点ではないかなと思っております。

そして、関西の観光の受け入れ力を広域的に強化していかなければならない。関西観光本部ができてWi-Fiの統一化が図られ、既に12月で5万人を超える方が利用するところまで来ておりますけれども、これをさらに10倍ぐらいに上げていくぐらいの迫力が必要だと思います。KANSAI ONE PASSも、どうしても電子化されているところと申しますか、まだ人で改札をしているところでは使えませんので、ここをどう広げ、一体感を持ったONE PASSにするか、こうした広域力を通じてのインフラ問題を我々考えていかなければならないと思っています。サイクリングとか、北前船の話もありますけれども、まさにこういうインフラをつくり上げていくことによって広域的な観光力を強化していくのが1点です。

それからもう一つは、先ほど申しましたようにFITが増えてくる中では、観光の新しい分野を開発していかなければ関西の観光は頭打ちになるのではないかと考えております。MICE、スポーツ、万博等のイベントや、アートが伸びないと関西自身の観光の奥行きは広がってこないと思います。その点から申しますと、私どもも大変IRに期待している部分がございますし、大阪万博等は大変な起爆剤になると期待している面もあります。また、スポーツではワールドマスターズを初めとしたスポーツ観光に期待をしていくということだろうと思います。

また、アートも瀬戸内海の瀬戸内国際芸術祭が有名でございますけれども、各地域でアートを中心とした観光が生まれてくる、さらにはクルーズとか、こういったものが加わってくることによって関西全体の観光分野を私たちはつくり上げていかなければならないと思っております、このあたりは関西観光本部の大きな役割として、グランドデザインとしていかなければならないと思っています。

その点から申しますと、やはり関西観光本部の体制をさらに強化していく必要があ

るのではないかと考えています。各地でDMOができてきておりますけれども、各地のDMOが個別に動くのではなく、関西観光本部という広域DMOがある程度調整力を発揮していくという形をとっていくことによって初めて大きな力を生むのではないかと考えています。IRの分野、万博の分野も含めて、いかに関西全体、または大阪と関西、ワンフォーオール、オールフォーワンという形がありますけれども、関西は大阪のために、大阪は関西のためにという形で、このIRや万博をしっかりと位置づけていく必要があると感じております。

財源論で申しますと、私、全国知事会の会長をしておりますけれども、全国知事会では確かに宿泊税を全国規模の地方税に導入できないかという提言を今始めたところでもあります。この分野においては、本当にそうしたものを広域観光の分野に何とか持っていける仕組みを作れないだろうか。例えば大阪や京都で宿泊税をとるとすると、そういうふうに各府県も自分のところで課税するような形で、それを使えないだろうかという点があろうかと思っています。

そしてもう一つ、実は財源が出てまいります、出国税が課せられます。これは400億円規模で2019年度から入ってくる形になります。この400億円を観光庁は使い切れませんので、私どもは全国知事会を通じて譲与税化をお願いしております。少しでも地方にも回せという形にしておりますけれども、これを広域観光の分野にも使えるように関西として動いてはどうかと感じている次第であります。

3番目は文化でありまして、お話がありましたように、いよいよ文化庁が京都に移転をしてまいります。今年の文化庁予算は、1,043億円が1,077億円になり、初めての大幅増という形になったと発表されました。7割ぐらいの人員がこの関西に参ります。ただ、正規の職員からすると、7、80人は臨時や他から持ってくる形にもなってきます。

ここで2つありまして、今通常国会で、文部科学省設置法の改正が出てまいります。その中では、文化庁はさまざまな文化分野の政策を調整していく、例えばコンテンツ

や映画の輸出、和食の振興、そして外国人誘致、こうした分野においても調整能力を発揮するという形で法律が変わります。その点から申しますと、さまざまな分野で文化と観光を融合した形の新文化庁としての役割を関西で果たしてもらおう、そのために関西が大きく力をかしていく必要があると思っております。かなり関西全体、官も民もこの文化庁に対する派遣を、単に文化庁という行政を助けるのではなくて、関西全体の文化力を高めるという観点からお願いをしたいと思っておりますので、この点もつけ加えさせていただきたいと思えます。

私からは以上であります。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） それでは次に松井委員、よろしくお願ひします。

○委員（松井一郎） では、私の方から、まず、万博についてですけれども、本日、政府の方から正式に、フランスが辞退をしたという報告をいただきました。これで2025年の万博立候補国は日本、ロシア、アゼルバイジャンと3カ国での争いになりました。もちろんこの万博を、今年の11月に誘致を勝ち取るという思いは、先ほど松本会長からもお話しありましたように、もう経済界の皆さんと同様、その思いはもう本当に熱く持っております、選挙でありますので、ここで私の方からぜひお願いしたいのは、これまでご協力をいただきまして、日本国内での機運醸成、特に関西を中心に機運が盛り上がってきたと、大体、万博の応援団も40万人を超える皆さんに署名またはネットでの申し込みをいただけたということで、本当に感謝をいたしております。

いつも松本会長と海外へB I Eプレゼンに行ったり、他の万博に、ジャパンデーでお邪魔したりすると、やはりどこの国も、日本の企業が本当に各国に進出してきているというのはすごく魅力だと、だからやっぱり企業の皆さんのそういう支援要請というのは各国とも本当に重く受けとめているということをお聞きいたします。これまでやっぱりフランスが立候補していたということで、ヨーロッパに対しては非常に、多少の遠慮もあり、なかなかヨーロッパでの誘致活動というのは、向こうが本拠地であ

りましたから、なかなか厳しいものがあつたと思いますが、フランスが辞退をされたということで、ヨーロッパ各国、B I E加盟国に余り遠慮をするという必要もなくなつたと思いますので、ぜひ各企業の皆さんの海外の拠点、ヨーロッパの拠点で日本万博への支持拡大、ぜひお願いをいただきたいと、こう思っております。

それと、観光についてですが、僕は思うんですけれども、やはりこれまで大阪府、大阪市、そして大阪の民間の経済界の皆さんと、大阪では大阪観光局というのを5年前に設置をして運営してきました。これ、相当の予算も投入しております。

また、この観光局ですけれども、権限を与えるかわりに、やはり運営者には責任も取ってもらいます。この運営において運営者が少し間違つた形の運営をしたことで答えが出なかつた、いい結果が出なかつた場合は、大阪観光局はその局長にペナルティーを与えてやめていただくというようなことまでやってきました。血を流すこともやり、そしてお金も投入をし、今、2017年度は1,111万人というお客さんをお迎えすることができまして、2020年には、大阪といたしましては1,300万人を目指しております。

我々もこれを関西全体にぜひ広げていきたいと、こう思っております。その中で、やはり関西観光本部が中心になるということでしたら、ここはやっぱり権限と責任、そして応分の負担、これを明確にしなければならないのかなと思っております。これを明確にするのにやっぱり時間も、議会もありますから時間もかかりますが、今、大阪は海外からのお客さんの入り口ですから、我々大阪観光局でそれぞれの関西、府県、そしてそれぞれの市の先導を、アピールをせよということであれば、これはご協力をいたします。ただ、非常にスリムな組織でやっておりますので、その形であればぜひ各自治体からのご協力をお願いしたいと思っております。

大阪観光局といいますと、難波、梅田に観光案内所を設置してしまして、さらにこの箇所を増やしていこうと思っております。具体的に言うと、こういうところで各県の取り組み、いろんなものをここで多言語で宣伝することによって、特に梅田は「トラベルサービスセンター」として、機能強化を図っておりますから、ここでそういうこ

とを宣伝することによって、今、大阪に玄関としてお越しになられた方を関西全体に広げることは可能かなと思っています。ぜひそういう具体的な支援要請があれば実際に前向きに捉えさせていただきますので、具体のプランをぜひお教えいただければと、こう思います。

私からは以上です。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） それでは荒井委員、よろしく申し上げます。

○委員（荒井正吾） 奈良県の知事の荒井と申します。

いろいろ意見賜りましてとても参考になりました。勉強させていただきたいと思えます。私からは2点ほど感想を申し上げたいと思えます。

1つは、広域交通体系でございます。関西全体で今、角さんおっしゃいました大都市間競争があると思えますが、関東や中京と比較すると関西はネットワーク性が劣っている。その大きな原因の1つが奈良県の大和北道路と自覚しております。大変、道路整備が遅れてきた県で、じくじたる思いでございますが、広域観光とか企業立地の拡大、拡散には鉄道の相互直通、いずれも大阪中心の鉄道の相互直通から遠距離の接続性と、それと環状道路が欠かせないと思えます。

環状道路の大和北道路を含めて、先日、関経連の松本会長と一緒に陳情させていただきました。大変パンチがあったと思えます。大変ありがとうございました。そのときに中央の人から、何だ、首長は1人かという顔をされまして、松本会長に大変申しわけない思いでございました。やはりできるだけ首長が参加して、プレッシャーをかけないといけないのかなという思いでございました。今後ともよろしく願います。

環状道路、これも角さんや大竹さんがおっしゃいましたが、受益と負担のNEXCO化といいますか、有料道路化が大きなパワーになると思えます。大和北道路も有料道路化で要求をしております。

もう一つは、堺市がおっしゃいました自転車道の利用でございます。自転車道は関西にとって有益かと思えます。京都市と木津川市の間に木津川を通した本当に立派な自転車道があります。和歌山県が紀の川（の堤防）を利用した自転車道を整備するというのを聞きましたので、奈良県は吉野川沿いと奈良県内を通る自転車道を整備するのに着手して、ルートを決めました。

すると、京奈和自転車道というのが先にできます。京奈和自転車道180キロぐらいあるんですけども、そういたしますと、ずっと通れるというのに、それに木津川沿いの自転車道を経由して「ビワイチ」と接続できないかということを考えております。また、「アワイチ」とはどう接続するのかと思います。淀川左岸線などいろんなところからぐるっと関西を自転車で回るといったような構想も、これは道路より早くできるかもしれませんので、今日の「アワイチ」、「ビワイチ」の話をお聞きして、ぐるっと自転車で何泊もしながら関西の要所を、自転車で回ると、良いところをたくさん回れるというのは堺市がおっしゃっているとおりでございますので、1つのポイントだと思って奈良県でも努力をしたいと思っております。

それから、2つ目の点は、万博に対する貢献ということを考えていきたいと思っておりますが、「ジャポニスム2018」というのがフランスでこの7月から安倍総理が行って展開されます。誘致に貢献する可能性もあると思っておりますが、奈良県はその「ジャポニスム2018」に出演・出展いたします。特に秋に春日大社の「春日若宮おん祭」が行きますので、ちょうどパリで決まる直前かもしれないので、できるだけアピールをするように心がけていきたいと思っております。関西の経済界の方もたくさん参加していただいておりますので、できるだけ盛り上がる方向で努力をしていきたいと思っております。

また、来年の今ごろには興福寺の仏像をパリの「ギメ東洋美術館」で展示することになりますので、そのときも、（開催地が）決まった後かもしれませんが、（奈良県が）万博が行われる関西にあるということ意識して広報展開していきたいと思っております。

おりますので、情報交換しながら一緒に盛り上げていくことができたらと思っております。

以上でございます。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ご案内いたします。この後、15時15分から当館の44階で「関西健康・医療創世会議」を予定しております。若干この会議が延びてもいいと思うんですけど、遅くとも10分には終えたいと思いますので、ご配慮をよろしくお願いしたいと思います。

それでは続きまして飯泉委員、よろしく申し上げます。

○委員（飯泉嘉門） 徳島県知事の飯泉でございます。

では、コンパクトにということですので。

まずは、徳島商工会議所連合会の中村会長さんの方から消費者庁のお話がありました。これは関西の経済界の皆さん、また、関西広域連合の皆さん方に心から感謝申し上げます。

いよいよ明治開闢以来、この国の統治機構、出先機関ではなく政策創造の場が今年の7月24日、ちょうどオリンピック開幕予定日ではありますが、徳島県庁の10階に54名規模で消費者庁「消費者行政新未来創造オフィス」として展開することとなりました。井戸連合長からも話がありましたように、関西広域連合からも兵庫県、鳥取県からこちらの方に国の職員として勤務をいただいております。四国3県からも全部、また、県内の市町村からも5名が入っているところであります。関連する企業の皆さん方からも人の派遣をいただいているところでありまして、ちょうど1カ月後、8月24日には江崎担当大臣にお越しいただきまして、そして記者団の前で、3年間ここでやってみる中で、全面移転に向けてしっかりと努力をしていきたいと、こうしたお話もいただいたところであります。

そうした中で、今、消費者市民社会、これを構成するに当たって、企業の皆様方に消費者志向経営、これを進めていただこうと。実は、消費者庁が音頭をとって全国組

織は既に立ち上がったところでありますが、地方組織がまだなかったんですね。しかし、中村会長を初め、徳島の経済界の皆さん方を中心として、「消費者志向経営推進会議」が全国の地方組織としては初めて徳島に立ち上がったところでありますので、ぜひ関西経済界の皆さん方におかれましても、やはり消費文化の中心は関西だということからも、そうした新しい政策についてはまずは関西からと、こうした形をぜひ打ち上げていただきたいと思います。

また、エシカル消費、こちらにつきましても新次元のものをということ、こちらは消費者団体、経済団体、そして学識経験ということ、これは国に組織がなかったわけでありますが、昨年、全国で初めて「とくしまエシカル消費推進会議」、こちらが立ち上がったところであります。特にこのフェアトレードを初め、世界的な観点を考えていきますと、やはりこうした点でも先ほどの万博誘致、やはり関西というのはエシカル消費、フェアトレードといった観点でも、エコの話も先ほど出ましたですけどね、やはり日本の、世界の中心なんだと、こうした点をやはり打ち上げていく絶好の機会ではないか、このように思いますので、この3年間、新次元の消費者行政、消費者教育の展開といった点で全面的なご協力を、そして、消費者庁は全面的に徳島に決まり、その後には今度は文化庁が京都へと、こうした連続で続くようにぜひよろしくお願いを申し上げたいと存じます。

そして2点目、こちらは京都の立石会頭さんからお話のありましたいわゆる文化財の、このインバウンドを初めとする観光資源としての活用といった点についてであります。こちらは角副会長からもお話があって、文化庁の予算が非常に少ないんだというお話があったところです。しかし、これは徳島を初めとして全国知事会から文化庁を初め国の方に提唱させていただきまして、大きくこの文化財保護行政が動きました。平成30年度から、例えば地方財政措置といった観点で、この文化財を観光資源として活用していく場合に特別交付税であるとか、あるいはハード面だということであれば起債措置、これが創設されることとなりました。我々、特に徳島としては、その提案

者でもありますので、しっかりとこれを活用していける、何といたっても文化財の中心のここを初めとして、関西が中核を担っているわけでありますので、ぜひここは経済界の皆さん方はもとよりであります。我々関西広域連合としてもしっかりとした展開をしていくことができればと、このようにも考えておりますので、ぜひさまざまなご提案をよろしくお願い申し上げます。

そして、最後に1点宣伝であります。先ほど中村会長から話のあったこのチームラボの皆さんですが、猪子代表が徳島出身というだけではなくて、ミラノ万博のときの2分間、この全体を取り仕切ったのが実は猪子代表であったということで、ただ、デジタルアートの場合にはどうしてもその後これが残らないという欠点があるんですね。でも、徳島では実は全県に、LEDデジタルアートミュージアム構想ということで、常設でこれを残していこうと、建物の中に、あるいは屋外にということで今、進めておりますので、2月9日から10日間ほど行っておりますので、ぜひ徳島にこの機会にお越しただければと思います。

以上です。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） それでは次に門川委員、お願いいたします。

○委員（門川大作） ありがとうございます。こうして関西の全域が、また、経済界と行政が目標や課題意識を共有して、そして前進していくという、先ほどから話を聞かせていただいて、力強いものを感じています。山田知事から包括的にありましたので、私からは2点だけ申し上げます。

1つは、観光の振興、インバウンドの増加、これを広域的な視点でやっていくことは当然大事ですけれど、地域住民の生活が向上し、地域住民が誇りを持つ、コミュニティが活性化していく、そうしたこととしっかりと結びつけなければ本当の持続可能なものにならないと、このように思います。その意味で、今、違法な民泊がはびこっているというのは、本当に日本は法治国家だったのかなと、こんなことさえ感じま

す。このことについては新しい法律もでき、各自治体で条例を策定していく段階ですけど、しっかりと連携して取り組んでいかなければならないと、このように思います。

同時に、マナーの問題も連携して、インバウンドの方々にきちっと説明が行き届けばおかしなことをされないわけです。私も三十数年前にシンガポールに初めて行ったときに、ガイドさんが、ここでたばこをポイ捨てしたら、当時で5,000円の罰金ですよということを厳しく言われたのを覚えています。マナーについては、きちっと訪日客にあらゆる手段で発信していくということが大事だなと思っています。

もう一つは、文化と観光、文化とモノづくり、文化と福祉、社会包摂、そうしたことをしっかりとつないでいくことが深みのある観光振興になるのではないかと思います。京都の商工会議所、立石会頭を先頭に、産業、知恵創出、まさに関西の強みは文化であります。文化によって地域力と、また、人間力と企業の力とつながって、各地域が元気になり、その結果として観光も振興し、健康長寿にもなると、こういう縦割りでない政策の融合に徹底して取り組みたいなと思っています。

万博誘致へ私たちも全力を挙げていきたいと思っています。今年は京都市とパリ市の60周年でございます。京都商工会議所とパリ商工会議所の60周年で、6月に代表団が行き、そしてまた秋にはパリの市長等をお迎えする。そういうときに、もちろん我々は関西、大阪の万博を応援してきたわけですけど、断念されたので非常にすっきりしたなと本音で思います。しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

そしてもう一つ、昨年、12月10日に京都議定書誕生20周年、この意義をしっかりと踏まえて、そして、全人類が参加するパリ協定へということで、「KYOTO+20」を世界18カ国で行いました。そのときに大事なのは、もちろん省エネ等々も大事ですけど、イノベーション、この拠点に関西がなっていく、そして、パリ協定の実行へと、こうしたことも含めて共々頑張っていきたいなと思っています。ありがとうございます。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） それでは吉村委員、お願いします。

○委員（吉村洋文） 私は、知事からも今ありましたので、補足的に申し上げたいと思います。

まず、万博についてですが、フランスが辞退して、フランス、あるいはヨーロッパへ影響力を持っていた代表団になるアフリカについても戦略的にいかなきゃいけないのかなと思っております。

私は昨年、アフリカの国際会議の外務大臣会議「T I C A D」に参加させていただきました。肌で感じました。企業の方と一緒にいかせていただきました。その企業はある国に投資しているという国と話したときのこの感触というのはもう最高に良くて、やはりこれまで日本企業がアフリカに投資したり貢献してるように、もちろん日本のODAを兼ねてですが、そういったことに対する感謝の気持ちをかなりアフリカの国々の方は多く持ってらっしゃいますので、現地のそれぞれの国で活躍してる企業の方と行政が一体となって活動して個別のアプローチをするというのがものすごくこれからアフリカにとっては有効になってくると思いますので、ご協力をよろしく申し上げます。

それから、大阪市は基礎自治体でありますので、機運の醸成については力を入れていきたいと、一番汗をかいていきたいと思っています。地下鉄の全車両に万博のロゴマークをつけたり、あるいは区役所を通じて市民の皆さんに会員になってもらうというのを、今、進めてやっております。今週の土曜日からは、これからまたB I Eの方もいらっしゃるということで、御堂筋については全て万博ののぼりで埋め尽くそうと思っています。

これから、いわゆる機運醸成というのに自治体として力を入れていきたいと思えますし、大事なのは、やっぱり投票行動ですので、その投票先に対するアプローチというのは企業の皆さん、経済界の皆さんと、それと国と協力して進めていきたいと思えますので、よろしく申し上げます。

それから、イノベーションにつきましては、先ほど立野副会頭からレギュラトリ

ー・サンドボックスのお話がありました。これは僕も非常に強い興味を持っておりまして、必ずやりたいと思っています。国にも率先して、まず国がどこまでやってくれるのかなというところも非常に大きなところではありますが、サンドボックスの制度の活用を視野に入れて、実証実験の検討チームを立ち上げて進めていきたいと思しますので、よろしくをお願いします。

それから、I Rのお話が出ましたが、I Rにつきましては、経済界が一致してこれを誘致することに賛同するという力強いご意見をいただきました。今、大阪府と大阪市の共同でI R推進局を作って、課題に正面から取り組んでおり、世界最高水準のI Rをこの大阪、関西に誘致したいと思っていますので、今度ともご協力、よろしくをお願いします。

私からは以上です。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） それでは竹山委員、よろしくをお願いします。

○委員（竹山修身） 堺市長、竹山でございます。

私からは2点お話ししたいと思います。

まず最初に、前田会頭からもご紹介がありましたが、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録についてでございます。1月19日に政府の閣議了解が得られました。これこそまさに皆さん方のおかげであると感謝申し上げます。そして、登録実現を目指す2019年、あと1年半でございます、2019年は、関西におきましてもゴールデン・スポーツイヤーズがスタートする年に当たります。この機会を捉えまして、世界の人々に関西をより一層アピールできると考えております。そして、登録実現を目指し全力で取り組んでまいりますので、よろしくご支援のほどお願いいたします。

そして、自転車の話もございました。私からは広域観光について、これからの観光の1つとして、空からの広域観光を提案したいと思います。

先日、関西エアポートの山谷社長にご提案申し上げたところでございます。関西国

際空港でのトランジット、そして、待ち時間を活用して、外国の方向けにセスナやヘリコプターを使って空港離発着の遊覧飛行を実施していただく、そういうことができないかと思っています。お値段は100ドル程度でやれたらと思っています。

巨大古墳というのは地上からはなかなか実感できないものです。雄大さを空から見ていただくことにその意義があると思います。そして、百舌鳥・古市古墳群や大阪城をヘリで俯瞰していただく、さらには、季節に応じて、春は吉野の桜、夏は鳴門の渦潮、秋は嵐山の紅葉、冬は高野山の雪化粧、そういったものをこれで見ただけなのではないかと思っています。現地での観光に加えまして、空からの広域観光の設定は、観光客の選択肢を広げると思います。普段なかなか見られない関西の新たな魅力を空から見るということを私も積極的に提案していきますので、実現に向かって皆さん方のご支援もお願いしたいと思っています。

2点目でございます。前田会頭からもご提案ございましたように、関西の文化振興の一翼を堺も担いたいと思っております。堺市では、来年の秋オープンに向けまして市民芸術文化ホールを建設中でございます。愛称は、先ほど申し上げていただきましたようにフェニーチェ、フェニックスの意味でございます、「フェニーチェ堺」といたしました。

この大ホールは、本格的なオペラやクラシックコンサートが開催できる2,000席を用意しているところでございます。もう一つ大事なのは、関西の文化や芸術を楽しんでもらうということで、能や文楽や狂言など伝統芸能が可能な小ホール320席を設けるところでございます。ここが関西の芸術・文化の創造、交流、そして発信拠点になればと思っております。

ホールの建設に当たりましては、堺市内及び大阪府内の企業さんや個人の皆さん方からご寄附をいただいております、非常にたくさん集まっているところでございます。これをより大きな輪にしていきたいと思っておりますので、市民の皆さんや経済界の皆さんのご理解、ご協力を得ながら、関西の文化発信力の向上、まさにオリンピックイ

ヤーを契機として、これに努めていきたいと思っております。自由都市・堺の歴史を彷彿させるような文化・芸術の殿堂にご期待とご支援をお願いしたいと思っております。

私からは以上でございます。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） それでは玉田副委員、お願いします。

○副委員（玉田敏郎） 神戸市の副市長の玉田でございます。

植村副会頭からは道路インフラの整備についてスピードアップをする必要がある、また、前田会頭からは関西3空港の機能分担による最適利用というお話がございました。道路につきましては、先日もお世話になりましたけれども、関西高速道路ネットワーク推進協議会で経済界の方に一緒になって要望していただいておりますことで大変お世話になっております。我々もこれに引き続き力を入れていきたいと思っております。

また、空港の方も、おかげさまで2017年度、開港以来最多の旅客数となりましたので、4月1日からの業務の引き継ぎを着実に進めるとともに、最適利用の議論を進めていくことをお願いしたいと思っております。これらのことを早期に実現させることが関西全体のために必要だと思っておりますので、ご協力を引き続きお願い申し上げます。

防災関係で一言だけ、副担当でございますので、震災から23年経ちましたけれども、なかなか伝承が進んでいないということで、2割以下になってしまいました、経験した職員の数でございます。そういう意味で、今までも海外からも行政官を神戸に招聘して研修をしたりしてはいますが、できればこういうものに加えて、広域的な防災に関する経験と教訓を伝えるような取り組みも進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） そしたら宮崎知事室長、お願いします。

○和歌山県知事室長（宮崎 泉） 和歌山県の知事室長の宮崎と申します。今日は知事が欠席しまして申しわけありません。

和歌山県は広域インフラを担当しておりまして、広域インフラにつきましては皆さん方にたくさん質問をいただいたんですが、井戸連合長の方で全部答えていただきま

したので、私の方といたしましては、関西広域連合では今後とも関西が有するポテンシャルが一層発揮されますように、「広域交通インフラの基本的な考え方」に基づきまして、早期整備に向けて関西一丸となって取り組んでまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございました。

それでは、予定時間過ぎておりますけれども、最後に一言ずつコメントいただきたいと思えます。

まず、松本会長、お願いできますでしょうか。

○関西経済連合会会長（松本正義） 今日は長時間にわたりまして、本当に広範囲に、関西が抱えている、そして、あるべき姿というのを皆さんにアドバイス、それからプロポーザルを含めて言わせていただきましたし、いろんなことを聞きました。基本的に一つ一つの問題点というのは認識していて、そして、ベクトルはほぼ合っていると感じております。

それで、終わりですけども、私ももうちょっとプロポーザルしようと思ったんですが、2つありまして、関西が数十年にわたって育ててきた広域連合コンセプト、道州制の話はここで話すちょっと時間が長くなるので、今、広域連合の方もどういう姿、どういうステップ、制度設計をどういうふうに変えるのか、いろいろとご議論されておまして、それは聞いております。それで、私ども関経連のスタッフもその中に入らせていただいて、まとめているところでございますが、何せこれ非常に難問でございまして、これからも先生方にもいろいろお話しさせていただいて、友達の輪を広げていく、共感を持っていただく人たちの輪を広げていくことをしていきたいと。

それと、ちょっと心配しているのは、北陸新幹線とカリニアとか、なにわ筋線の結節点が新大阪のあたりになってくるわけですけども、それをどう考えるのか。もう早くやっとかないと土地がどんどん上がっていくし、大変な人が入ってきてまた困るな

ということもありますので、この2点については、ここで時間がもう限られていましたから、あえて私の初めの挨拶から外したんですけども、この2点も私の頭へ入っております。また広域連合の皆さんと詰めていきたいし、こうあるべし、こうだというよりも、こうだろうなという形で進めていきゃいいんじゃないかと思ったりしているんですけども。

まず、地方自治の形というのを考えるのは非常に時間がかかる、そしてエネルギーも要る、それから、要するにコンセプトも要る、理想も要るというようなことで難問ですけども、なかなか難しい宿題として我々経済界も捉えておりますので、ひとつまたよろしく願いいたします。

以上です。今日はどうもありがとうございました。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございました。

○関西広域連合長（井戸敏三） それでは、私からお礼だけを申し上げたいと思います。今日は率直な意見交換をすることができまして、本当にありがとうございました。

なお、最後の宿題の道州制などの広域的な行政のあり方については、地方自治をどう考えるのかということと非常に関連がありますので、私、憲法改正論議の際に、地方自治をどのように憲法に位置づけていくかということが1つの課題になりますから、そのような議論を通じながら具体化していくという作業が必要になるのではないかと考えています。そのような意味で、知事会は知事会で検討中ではありますが、私たち自身もしっかりと受けとめて対応していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。今日は本当にありがとうございました。

○関西広域連合本部事務局（中塚則男） ありがとうございました。

それでは、これをもちまして意見交換会を終わらせていただきます。本当はお忙しい中、ありがとうございました。